

日本で初の出版【中央アジアの歴史、シルクロード史、日本の基層文化の再評価を促す豪華本】

「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝 ソグド人・パミールから奈良へ」(著者ハムロホン・ザリフィ)
タジキスタン共和国独立 30 周年 (今年)、タジキスタン共和国と日本の国交 30 周年 (来年) 記念出版

◎ クラウドファンディングキャンプファイアで、出版プロジェクトの支援募集が公開されました。

500 円からの募集です。ぜひご協力をお願いします。

https://u6264784.ct.sendgrid.net/ls/click?upn=xZ2T38nmCTjOtRyx1ZHneFP4iadijbxLnYtXY49KiWhgATx9nF7mki-d-2BTlfoSshibZq1aVoqGejOgoJE6uTqJA-3D-3DhWFZ_6X2XLPhNZjva-2Fe5GdrBgqwEzELyY-2Bi8kSW7eIszzC9Whgw-d7WXlxyeOe8vz4AzE7Ls1inef7Q1v9VM-2Fwb41_nwm1s1oh0Tu4UzMpkjU2yrE78gT6m1-2F14Uc0w-2B9XOf4ngtboAdlwaarbX0X2aQjzL68XXJ4fb3xpEeXdeWsiMOByX-MjhH7ED3Q4NLWfMSFnFDfyBf0iYo6IUGuC9t87Fqdv7CVSfzWjeloEL-2FCburuy9Yl4pvoNiWQV-2FX5ko1hRaSYEykqFNGcgGjjc81knMITpA-3D-3D

◎ 出版の情報拡散と出版予約協力をお願い

「購入予約」を中心としたユーラシアンクラブの出版協力予約募集は <http://eurasianclub.org/> から。

秋にも、トルコで印刷、 SHIPPING で日本に搬入、手作業での郵送の見込みができた判断して、5 月後半に入り、チラシを印刷、情報拡散の努力を続けています。しかし「タジク」を銘打ったこの本は、情報拡散に苦しんでいます。このため著者ザリフィ氏、服部英二元ユネスコ事務総長特別顧問 (ユネスコの大シルクロード調査プロジェクトの企画実施者) と協議し、「タジクの黄金遺宝」の書名を「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝 ソグド人・パミールから奈良へ」と変更することを決めました。

プロジェクトの内容は特手非営利活動法人ユーラシアンクラブのホームページ eurasianclub.org でご覧になることができ、Word の出版協力申込書、大野遼の「別冊特集」もダウンロードできます。

タジキスタン共和国と日本国交 30 周年記念出版

タジク・ソグドのサマーン朝がアジア史の転換点

『秘められたシルクロード
タジクの黄金遺宝
ソグド人・パミールから奈良へ』

著者ハムロホン・ザリフィ氏

コスモポリタン 加藤九祥先生

中央アジアのシルクロードの主役「タジク・ソグド」
文化遺産を多角的、網羅的に紹介する豪華本は日本初
図書館に一冊。「アジアの眼」を養う個人蔵書にどうぞ

ソグド語はウィグル文字、モンゴル文字、満州文字の祖/タジク・ソグドはアジアの音楽芸術文化の基層を形成
「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝 ソグド人・パミールから奈良へ」
日本語版の表紙/背景はゴルドと日本をつなぐ仏教文化の象徴が黄金。
中央アジアの二つの大河アムダリヤとシルダリアに囲まれたソグディアナの中央を東西に流れるソグド川 (ザラフシャン黄金の水しぶき)。タジキスタン共和国北部にソグド州が、アレクサンダーの東征に最後に果敢に抵抗したソグド人は、大衆仏教の東漸を含めて、陸・海のシルクロードの主役。
ギリシャ・ローマから 66 アジア：中東、中央アジア、インド、中国、日本の基層文化を刻む。連続と継承されたタジク・ソグドの文化遺産を網羅的に紹介する世界で唯一の豪華本。アジア理解に必読の書。日本初の出版。
著者は、ハムロホン・ザリフィ前駐タジキスタン共和国特命全権大使 (元タジキスタン共和国外務大臣)。
A 4 版 450 頁 (見込み)。総カラー図版点数は 500 点以上。一冊 3.5 キロ。世界の 10 か国の言語で翻訳されている：タジク語、ロシア語、英語、アラブ語、中国語、ペルシア語、フランス語、ドイツ語、トルコ語、スペイン語。日本語版は 11 か国目の出版。日本の出版社は軒並み出版引きを受けを断り特定非営利活動法人の発行となった。
○発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ (会長大野遼、理事長江藤セダカ)
〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1。予約出版特別価格 1 冊 10,000 円 (税込み・送料込み)
『秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝 ソグド人・パミールから奈良へ』 日本語版予約申込書
申込書は：ホームページ：ユーラシアンクラブ eurasianclub.org から、
「日本語版購入予約、出版協力申込書」をダウンロードし、記入の上、ファックス：046-265-0167 もしくはメールアドレス：pa022666@nifty.ne.jp に送信してください。大野遼の「別冊特集」もどうぞ。
○入金は、郵便振替口座「タジクの黄金遺宝」日本語版協力出版 00240-6-139523/〇二九店当座 0139523

高松塚埋蔵人物の他奈良県には日本で唯一ソグド人 (ペルシャ人) 安知宝が住職になった仏教寺院唐招提寺、交易や法隆寺に伝わった香木にソグド文字、バフラヴィ文字、奈良時代の平城宮にペルシャ人の役人がいたことを示す木簡、東大寺・二月堂のお水取りにはパミール起源のゾロアスター教由来の地下水脈カレース (伊藤義典) が潜む。ソグド人はシルクロードの主役。タジクはソグドの継承者。一五島列島にソグド人集落? 東大寺の Na2 実史の頭塔とパミールの仏塔、実史もソグド人? 安知宝と実史は空海の相談相手? シルクロードの再評価が必要

サマルカンドのアフラシヤブ壁画
舟に乗るソグドの女性

奈良県明日香村の高松塚古墳壁画女性像/荒井正吾奈良県知事を面会したザリフィ大使は「富貴ソグド人女性の衣装と同じ」と話す

シルクロード学研究叢書 7 「古代奈良にみる異文化とシルクロード」より
アフラシヤブ壁画復元図/菅谷文則

中央アジアの現代タジク人女性の衣装

～時空を超えてつながるタジク・ソグド人の衣装と高松塚古墳壁画～

◎ 「シルクロード」は知っていても、「シルクロードの主役=タジク・ソグド」は知らない日本人

この出版活動が困難なのは、普通の日本人は「タジク・ソグド」と聞いてもピンと来ないのが実情であることによります。「タジク・ソグド」という名前を知っているのは「1 万人に 1 人」「10 万人に 1 人」と言われ、政治家も役人も同様のようです。経済人は、タジキスタン共和国とのビジネスには興味があるが、歴史文化は自分たちのテーマではないと言う声があります。外務省は、「中央アジア+日本」の外交戦略を持っていますが、中央アジアの基層文化にペルシャ、「タジク・ソグド」があるということの理解はいまいちのような感想を得ています。ウズベキスタンはじめ中央アジア諸国と日本の交流団体も、中央アジアの基層文化に「タジク・ソグド」が影響を与えているとの理解が必要だと感じます。中央アジアや日本だけではありません。中共は外交政策で「一带一路」を掲げていますが、国内でウィグル、チベット、モンゴルを「中華」「漢民族」に吸収する方向にあって、ましてや中国史でタジク・ソグドが与えた歴史文化の大きな影響に敬意を表するとは想像もできません。ソグド語が、ウィグル語、モンゴル語、満州語形成の背景にあることも含めて、今や、8 千人とも 3 万人とも言われるソグド人の子孫ヤグノブ人への敬意を示せるアジアになることが大切だと思います。「多様性に敬意 民族の共生」を少数民族にウェットを置いて考え模索することが、少なくとも今のアジアの課題だと考えています。

私は大野遼。73 歳。元共同通信記者で、在職中江上波夫先生、田村晃一先生初め日本を代表するユーラシア研究のリーダー的な先生方と北方ユーラシア学会を創設し、旧ソ連崩壊を目の当たりにして、多様性に敬意、民族の共生を模索してユーラシアンクラブを創設、今日まで活動してきました。

このほど、中央アジアのパミール高原の国タジキスタン共和国の元外務大臣、前駐日タジキスタン共和国大使のハムロホン・ザリフィ氏が著者である「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝日本語版」を発刊することになりました。

本来、2016 年 9 月 12 日、ウズベキスタン共和国テルメズ市の仏教僧院遺跡発掘中に倒れ、逝去した加藤九祚国立民族学博物館名誉教授（特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ名誉会長）が監修するはずでしたが、駐日タジキスタン大使館で監修を快諾した後 2 か月後に亡くなったため、私大野遼（特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ会長）が遺志を継承し、在京の大手出版社に働きかけましたが、「タジク」「ソグド」では採算が取れないと断られ、特定非営利活動法人が、既にあった翻訳テキストの一部再翻訳、校正、購入予約者、出版協力寄付者に手作業で届ける発刊活動に挑んでいます。秋には、トルコの印刷会社で印刷し、 SHIPPING で日本の港まで搬送、茨城県かすみがうら市に設置する「加藤九祚記念アジア共生センター」で保管、協力者に郵送する計画です。

加藤九祚先生は、韓国慶尚北道出身で、努力して上智大学に入学したものの戦前日本陸軍に応召、満州でシベリア抑留され、「抑留は、叶わなかったドイツ留学に替わるシベリア留学」と切り替え、日本に帰国後、抑留中に身に着けたロシア語で「シベリアの歴史」（紀伊国屋書店）に始まり、最後は一人雑誌「アイハヌム」（東海大学出版会）、「シルクロードの古代都市」（岩波書店）まで膨大な著作を世に残し、国立民族学博物館名誉教授、ロシア科学アカデミー名誉博士、創価大学名誉教授、大佛次郎賞、南方熊楠賞、日本国外務大臣表彰、ウズベキスタン共和国友好勲章、テルメズ市名誉市民などを授与されているコスモポリタンです。大野遼は、「シベリアの歴史」を高校二年生の時川越の書店で目にして以来の加藤九祚先生信奉者です。

ハムロホン・ザリフィ氏の著書となるこの本は、A4 版 460 頁総カラーで、これまでに、『タジクの黄金遺宝』は世界の 10 か国の言語；タジク語、ロシア語、英語、アラブ語、中国語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、トルコ語そしてスペイン語である。日本語版は 11 か国語目の出版となります。

【本書の構成、図版点数】 図版点数は 500 点以上。A4 番 460 頁。この本の目次は、「日本語版序言 オクサスの遺宝 11 頁、シルクロード 15 頁、細密画 21 頁 金属加工 28 頁、陶器 20 頁、彫刻 20 頁、タジクの芸術作品 16 頁、絵画 20 頁、カンバス油彩画 30 頁、建築装飾 46 頁、アラバスターとガラス 12 頁、夏の家（東屋） 16 頁、石器 4 頁、宝石デザイン 13 頁、女性宝飾 23 頁、民族衣装 16 頁、刺繍 26 頁、金刺繍 14 頁、頭飾りと履物 12 頁、綿織物の製織と印刷 14 頁、楽器 14 頁、さまざまな民族工芸 7 頁、タジクの美術工芸 12 頁、これまでの翻訳出版等を内容とする、1 冊 3.5 キロの豪華本です。

「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝日本語版」には、服部英二・元ユネスコ事務総長顧問（大シルクロードプロジェクト企画実施責任者、加藤九祚先生を顕彰する会代表幹事）と田中哲二・中央アジアコーカサス研究所長（元日銀国際局参事、キルギス共和国大統領経済顧問、加藤九祚先生を顕彰する会代表幹事）、日本を代表するソグド語・ソグド文化研究者である吉田豊・京都大学名誉教授（英国学士院客員会員）による書評が掲載されています。

この本を通覧すれば、中央アジア各国で現在目にする文化遺産、シルクロードの文化遺産の多くが、サーマーン朝に遡り、タジク・ソグドの文化に系譜を有することが理解でき、例えば著者のザリフィ氏が奈良県で荒井正吾知事と面会した折、目にした高松塚古墳壁画の女性衣装が「ソグドの女性の宮廷衣装であり、現代タジク女性の伝統的民族衣装である」と感想を述べた通り、日本の歴史文化遺産との関わりを理解するヒントがカラー画像の中に大量に含まれています。日本で、シルクロードの音楽や楽器と言われる文化も西突厥やサーマーン朝に遡りペルシャの音楽が波及した結果であるとの再評価に至るでしょう。アジアの音楽史でソグド人が果たした役割については大野遼が「チンギスハンがいなかったら誕生しなかった江戸歌舞伎」（ネット公開連載アジアの眼）ですでに紹介していますが、その一端を大野遼の「別冊特集」で捕捉解説しています。

「タジク・ソグド」のサーマーン朝は、中央アジア初のイスラム国家ですが、ゾロアスター教からイスラムに改宗したサーマンフダー（ソグド語で領主サーマンの意味）が時代の要請に応じてサーマーン朝の基礎を築き、サーマーン朝は当時勃興してきたチュルク系民族のイスラム化、中央アジアへの受け入れにシフトしたことが、中央アジアの歴史が現在に至るチュルク化の原点です。世間になじみがないが、紀元前 4 世紀のアレクサンダーの東征、紀元後 7-8 世紀の中央アジアのイスラム化が、ソグド人の運命の大きな背景です。福江島にソグド人集落ができ、鑑真が来日した時、ソグド人の母国中央アジアはイスラム化が進み、最終的に安史の乱で中国のソグド人が絶滅する前夜でもありました。時代の狭間で、安如宝は日本で唐招提寺の住職になり、金銅仏の掌に硬貨を埋め込んで、ソグドのあかしを遺しています。そんな人類史の悲しみを感じるソグド人ですが、ソグド人無くして今の中国も日本もあり得ません。ソグド語は、ウィグル語、モンゴル語、満州語の起源となっています。歴史文化への敬意がない人類に未来はないと考えています。

タジキスタン共和国は、「パミール」（ミフルの足）に存在が仮託された太陽神ミフル（ミトラスの起源）を背景として、パミール以西で誕生した世界最初の一神教（善悪二神教）ゾロアスター（教）の発生地可能性があります。ゾロアスター教は、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教へ影響を与えたと考えられていますが、成立はペルシャ人、中でもソグド人とのかわかりが指摘されています。ソグド人は、仏教だけでなく、ユダヤ教、キリスト教、マニ教、なども受け入れ東方伝播していたことが知られていますが、太陽神崇拜のコスモポリタンであったことが背景にありそうです。紀元前 1 千年から紀元後 1 千年にかけて、パミールから五島列島の福江島に達し、東シナ海を挟んで揚州と福江島のソグド人集落が遣唐使や鑑真和尚の渡航を支援したと想像されます。日出国タジキスタン共和国から時空を超えて日出国（扶桑国）日本に至ったタジク・ソグドの活躍を抜きにこの現象は理解できません。

これまで、日本におけるペルシャ文化の影響については、正倉院や法隆寺、明日香村の文化遺産を通してこれ

までも触れてこられていますが、日本の歴史文化の中でも、日本最初の仏教僧がペルシャ人の女性（司馬達等の娘善信尼ら）であったこと。鑑真の日本渡航を支援したのがペルシャ人（ソグド人）のネットワークで、一緒に来たペルシャ人（ソグド人）の安如宝が唐招提寺の第四代住職を務め、日本で唯一ペルシャ人が住職だったお寺になっていること、東大寺二月堂のお水取りや頭塔がパミール由来のゾロアスター教起源の可能性があること、空海の相談相手が安如宝や実忠だったほか、日本の雅楽の琵琶はペルシャ起源のバルバット（宋代の事物紀原では「碎葉起源」と記されているソグドの楽器）であることなど「タジク（ソグドの後継者）」やソグド人の歴史を考える時、大いに再評価が必要になっていること、などから、「秘められたシルクロード タジク（ソグド）の黄金遺宝日本語版」は、中央アジアやシルクロード、アジア史を考える時にそばに置いておきたい必携の書であると考えられます。これらの一部は、多岐にわたってすべて大野遼の「別冊特集」に情報を盛り込んでいます。

「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝日本語版発刊」の情報は、出版協力予約寄付申込書を含めユーラシアンクラブのホームページ、eurasianclub.org から情報をダウンロードすることができます。

「秘められたシルクロード タジクの黄金遺宝日本語版」を、日本の出版社は採算に合わないと言ったが、中央アジア、シルクロード、中国、日本の基層文化を形成した「タジク・ソグド」の歴史文化遺産を理解するのに必携の書であると考えています。理解ある日本人一人一人の力を合わせ、この本を発刊したいという希望を強く持っています。ご支援よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 会長 大野遼 拝